

松帆神社例大祭×スタンプラリー



松帆神社社宝 名刀「菊一文字」

スタンプラリー

開催期間

2023年 9月30日(土)・10月1日(日)

※「菊一文字」公開がある例大祭は10月1日のみ斎行

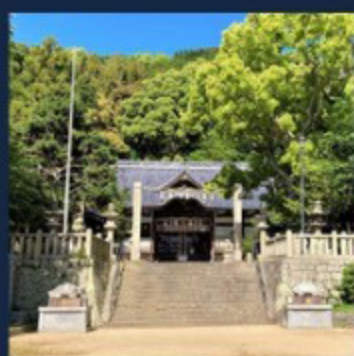
参加方法 ①スタンプラリー台紙を松帆神社もしくは各観光案内所(淡路SA/洲本/岩屋/南あわじ)にてお受け取りください。

(事前に公式SNSから印刷してご持参いただくことも可能です)

②松帆神社+「あわじ花へんろ」の対象施設(裏面記載)の内から2カ所の計3カ所のスタンプを集めてください。

③条件達成でオリジナル記念品をプレゼント!

※淡路島型の香立て+お香セットもしくは菊一文字コースターを先着順でおひとり様につきひとつお渡しします。詳細は公式SNSをご確認お願いいたします。



松帆神社は、淡路島の北東部、東浦に620年前に創建され、楠木正成公の由縁を持つ。神輿渡御やふとん太鼓の宮入りが行われる、年に一度の例大祭では、社宝の名刀「菊一文字」も公開されます。



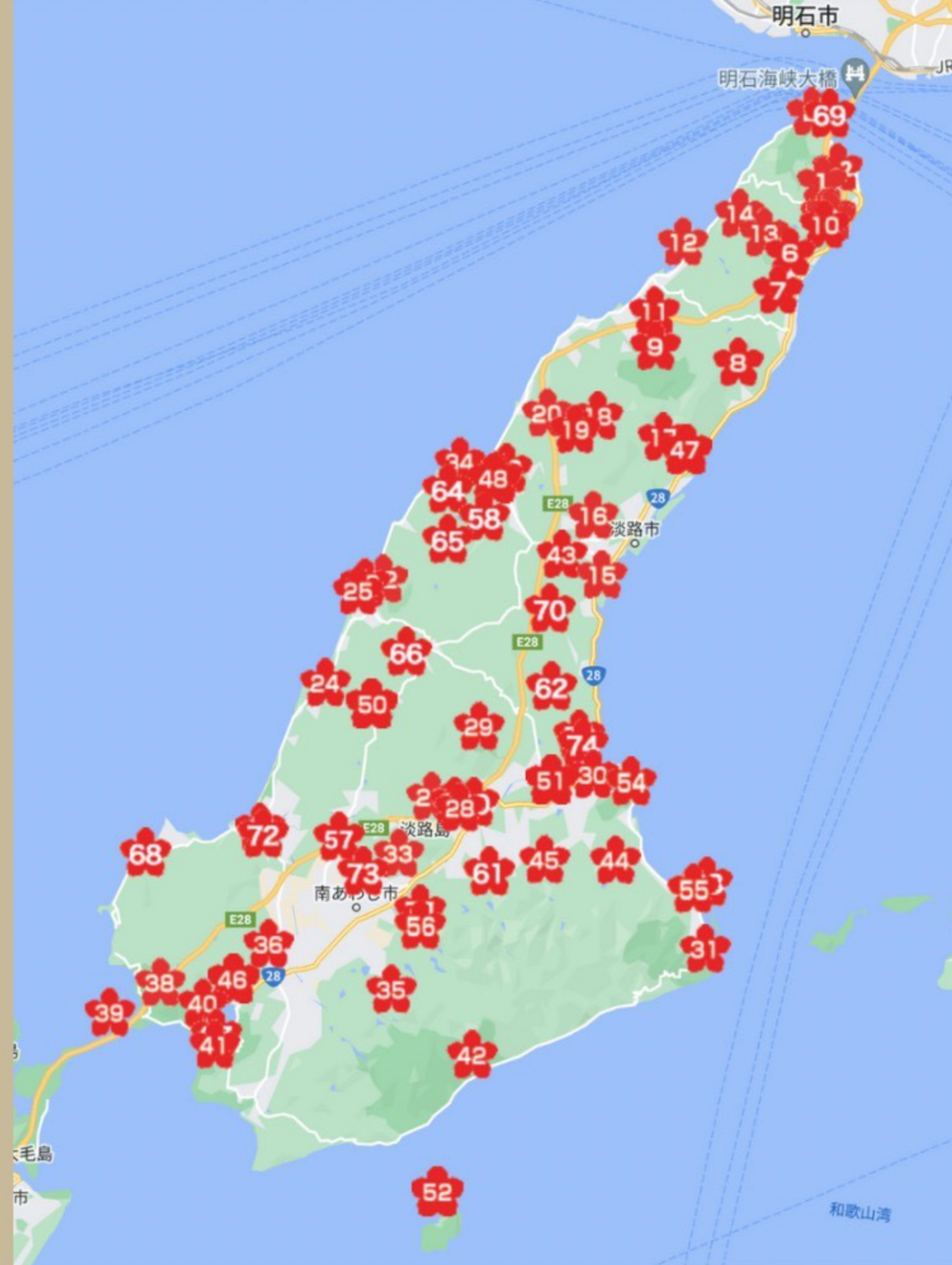
三宮バスターミナルから松帆神社へは東浦BT行(約1時間) 洲本バスセンターへは洲本高速BC行(約1時間半)をご利用いただくと便利です。(現金またはICカード使用可能)



記念品交換 は松帆神社から直進徒歩3分の「コハルビヨリ」にて夏日行っております。限定コラボ商品もございますのでぜひお越しください。



こちらは公式SNSのQRコードです
公式SNS | @matsu_suta2023
主催 | (一社)淡路島観光協会
電話番号 | 0799-22-0742
協力 | (一財)淡路島くにうみ協会



花の札所一覧

第01番 県立淡路島公園
第01-2番 淡路ハイウェイオアシス
第02番 美湯 松帆の郷
第03番 淡路島国営明石海峡公園
第04番 淡路夢舞台
第05番 あわじグリーン館
第06番 本福寺水御堂
第07番 東浦サンパーク
第08番 妙勝寺
第09番 常陸寺
第10番 アート山大石可久也美術館
第11番 浅野公園
第12番 北淡震災記念公園
第13番 県立公園 あわじ花さじき
第14番 淡路景観園芸学校 アルファガーデン
第15番 淡路ワールドパーク ONOKORO
第16番 静の里公園
第17番 園城寺
第18番 あわじ花の歳時記園

第19番 東山寺
第20番 パルシェ香りの館
第21番 淡路市立香りの公園
第22番 ウェルネスパーク五色
第23番 嘉兵衛の里
第24番 極楽寺
第25番 栗師山
第26番 淡路ふれあい公園
第27番 広田梅林
第28番 みどりの花時計21
第29番 先山千光寺
第30番 曲田山公園
第31番 生石公園
第32番 淡路ファームパーク
第33番 イングランドの丘
第34番 "花の村"東桃川花木公園
第35番 論鶴羽ダム・憩いの広場
第36番 賀集八幡神社

第37番 南あわじ市滝川記念美術館 玉青館
第38番 うずの丘 大鳴門橋記念館
第39番 道の駅うずしお
第40番 休暇村 南淡路
第41番 南淡路横街道
第42番 瀬黒岩水仙郷
第43番 伊勢の森神社 あわじ御所桜 幸福の道
第44番 源流の郷 あわじ花山水
第45番 猪鼻谷フォレストパークキャンプ場
第46番 観潮船基地なないろ館
第47番 八淨寺
第48番 水仙の丘 (DAFFODIL HILL INOUE)
第49番 みたから公園
第50番 宇原の榊蔵
第51番 沼島の花・歴史めぐり
第52番 伊弉諾神社
第53番 伊弉諾神社
第54番 小路谷 古城園のテラス
第55番 由良湊神社

第56番 八木のしだれ梅 (村上邸)
第57番 おのころ島神社
第58番 岩上神社
第59番 名号石
第60番 広田の寒泉
第61番 鮎屋の滝・鮎屋の森
第62番 都市・農村交流施設「宙・おおぞら」
第63番 成ヶ島
第64番 淡路ユースフェデレーション
第65番 山田川桜並木通り・コスモス
第66番 小山田村農場 (旧チューリップハウス農場)
第67番 若人の広場公園
第68番 お鳥塚
第69番 道の駅あわじ・松帆アンカレッジパーク
第70番 蓮花寺
第71番 成相寺
第72番 国清禅寺
第73番 淡路国分寺
第74番 炬口八幡神社



「あわじ花へんろ」は、淡路島が誇る四季折々の花の景勝地・観光施設等を花の札所に指定したもので、皆様に巡っていただくことにより、地域の方とのふれあいや、花の島・淡路島の魅力を満喫していただくことを目指しています。



写真のような札所を設置していますので台紙にスタンプを集めてください
(例)第46番 観潮船基地なないろ館



公式サイト「あわじ花へんろ」にて花の札所に関する詳しい情報を記載してありますのでご利用ください

松帆神社

御由緒

時は南北朝時代、延元元年（1336年）5月、楠木正成公が湊川の戦いにて獅子奮迅の働きむなしく足利勢の大軍に包囲せられ弟・正季（まさすえ）公と刺し違え自刃せれるより前、家臣吉川弥六に日頃守護神として崇め身に着けておられた八幡大神の神璽（みしるし・文殊のようなものと伝わる）を託され、戦場より逃れ安住の地にて奉祀するよう命じられた。弥六は神璽を首にかけ、仲間数人と共に夜陰に乗じて海路淡路島に落ちのび、現在の淡路市楠本付近の浜に辿り着いた。上陸し、疲労のあまり仮眠していたところ、兎に起こされ追手に気付き更に山奥へと逃れた。これより後、弥六一行の子孫は兎を八幡大神の厄除の使いと考え、その肉を食する事を禁じたと伝わる。

弥六達は潜伏を続けながら山中に小祠を建て八幡大神を祀り、周囲を開拓し一帯を楠木村と称した。これが後に楠本（くすもと）村と改められ、現在の淡路市楠本となったものである。現在も楠本地区にはこの小祠が元八幡として伝わっている。その後、この小祠については弥六一行が残党狩りを逃れた厄除の御神徳をはじめ、祈願成就の御神徳顕著な事が評判となり、応永6年（1399年）に来馬庄（現在の久留麻の社地）に遷され、来馬・浦・飯屋・谷・下田・楠本・中持・小田・河内・白山などの村々の鎮守の「八幡宮（八幡さん）」となった。

明治14年5月に、周囲の浜辺が「松帆の浦」と呼ばれていたことから「松帆神社」と改称し、現在に至る。

印 押



こちらは「松帆神社例大祭×スタンプラリー」専用台紙です。
松帆神社1カ所＋あわじ花へんろの施設から2カ所の計3カ所を巡り、右の押印カ所を埋めてください。
詳しい内容は外面の案内をご覧ください。